

基本政策 I

人間としての在り方生き方の軸をつくる

現状と課題

・今日子ども・若者が生きる社会は、ますます予測が困難な状況になっており、これまでも、社会環境の変化に十分対応できず、学校から社会への移行が円滑に行われていない子ども・若者の実態について、コミュニケーション能力の不足や低い自己肯定感、他者への配慮の不足といった状況が指摘されており、将来、社会的・職業的に自立するために必要な基盤となる能力を育成する必要があります。

・21世紀の日本にふさわしい教育体制の構築に向けた内閣の私的諮問機関「教育再生実行会議」における第十次提言では、「諸外国に比べて子供たちの自己肯定感が低いままでは、『社会に開かれた教育課程』の下でこれからの時代に求められる資質・能力を十分に実現できたことにはなりません。」と述べられている一方で、全国学力・学習調査の結果を見ると、本市の子どもの自己肯定感は、小学生、中学生ともに依然として全国平均よりも低くなっています。

・本市では、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程を促すために、すべての市立学校で「キャリア在り方生き方教育」を推進しており、引き続き、子どもたちに社会的自立に向けて必要な能力や態度とともに、共生・協働の精神を計画的・系列的に育てる教育が求められています。

政策目標

「キャリア在り方生き方教育」をすべての学校で計画的に推進し、すべての子どもに、社会で自立して生きていくための能力や態度とともに、共生・協働の精神を育みます。

主な取組成果

新型コロナウイルス感染症の影響から必要となった、学校におけるICTを活用した教育活動の支援を含め、学校等訪問研修会を76回開催し、各学校におけるキャリア在り方生き方教育の取組を支援しました。

多様性を尊重する教育活動を推進するため、市民文化局等と連携して教材を作成するなど、かわさきパラムーブメントについて啓発の支援を行いました。

「キャリア・パスポート」を作成・配布し、担当者研修会及び訪問研修会で説明し、教職員の活用に関する理解を深めました。

参考指標

※ 基本政策の目標の達成度を評価する際に参考とするための数値であり、この数値のみをもって基本政策の成果とするものではありません。基本政策の評価は、事業の進捗状況等を踏まえて総合的にを行います。

指標名		実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3(2021)
自己肯定感 *	小6	79.9% (H29(2017))	87.3%	83.1%	-		82.0%以上
	中3	70.4% (H29(2017))	80.0%	75.0%	-		74.0%以上
「自分にはよいところがあると思う、どちらかといえばそう思う」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
将来に関する意識 *	小6	83.9% (H29(2017))	84.6%	81.2%	-		86.0%以上
	中3	68.4% (H29(2017))	70.3%	67.6%	-		69.0%以上
「将来の夢や目標を持っている、どちらかといえば持っている」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
自己有用感 *	小6	92.6% (H29(2017))	95.4%	95.4%	-		94.0%以上
	中3	90.9% (H29(2017))	93.7%	93.4%	-		92.0%以上
「人の役に立つ人間になりたいと思う、どちらかといえば思う」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							

指標名		実績値	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	目標値 R3(2021)
チャレンジ精神 *	小6	78.8% (H29(2017))	-	79.3%	-		81.0%以上
	中3	71.7% (H29(2017))	-	70.2%	-		74.0%以上
「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している、どちらかといえば挑戦している」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
共生・協働の精神 *	小6	87.8% (H29(2017))	-	-	-		90.0%以上
	中3	84.3% (H29(2017))	-	-	-		85.0%以上
「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							
社会参画に関する意識 *	小6	42.7% (H29(2017))	52.5%	55.8%	-		44.0%以上
	中3	29.6% (H29(2017))	35.7%	35.4%	-		31.0%以上
「地域や社会をよりよくするために何をすべきか考えることがある、どちらかといえばある」と回答した児童生徒の割合【出典：全国学力・学習状況調査】							

*参考指標「共生・協働の精神」については、平成30年度と令和元年度は出典元の調査において設問がなかったため記載をしていません。

*参考指標「チャレンジ精神」については、平成30年度は出典元の調査において設問がなかったため記載をしていません。

*令和2年度の参考指標については、全国学力学習状況調査が実施されていないため、記載をしていません。

主な課題

教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習の推進などに対応したカリキュラム・マネジメントの充実に向けた実践的な研修を行う必要があります。

東京オリンピックパラリンピックの開催を契機として、「かわさきパラムーブメント」が目指すものや理念を各学校に取組例やSDGsの視点を紹介しながら浸透させて、多様性を尊重する教育を計画的・系統的に推進できるよう、引続き支援することが必要です。

児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成の見通しや振り返りを行いながら、自身の変容や成長を自己評価できる「キャリア・パスポート」及び「キャリア在り方生き方ノート」の活用を促進し、児童生徒が主体的に学びに向かう力を育む必要があります。

教育改革推進会議における意見内容

多様な人が幸せに協働して生きられるような社会づくりを目指す中で、どのように自分が自己実現できるかを示せるようなキャリア教育を進めることが大事である。「かわさきパラムーブメント」などの川崎が大事にしてきた多様性を尊重していきけるような教育を今後も推進してほしい。

身近な地域に誇りを持ち、様々な問題意識を持つことができるようになることで、結果的にグローバルな視点や持続可能な視点による問題発見や解決につながると思う。

自己有用感が高いにもかかわらず、社会参画に関する意識が低いことは課題として挙げられる。子どもの意見を表明する機会など地域参加の場を提供する仕組みづくりが必要である。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、先の見えない状況にある子どもたちにとって、「キャリア在り方生き方教育」は今後非常に大切な取組になると考えられる。そのため、キャリア在り方生き方教育の内容を保護者や市民と共有していくことが大切である。

今後の取組の方向性

各学校が児童生徒に身につけさせたい資質・能力を明確にして、その育成につながるよう教育活動を見直すとともに、現代的諸課題であるSDGs・ESDや、かわさきパラムーブメント等の視点を取り入れることで、カリキュラム・マネジメントの充実につながるよう教職員への研修を行います。

社会参画に関する意識については、キャリア在り方生き方教育における、小学校からの系統的な取組を通して、「わたしたちのまち川崎」を三つの視点の一つとし、「心のよりどころとしてのふるさと川崎への愛着をもち、将来の川崎の担い手となる人材」を育成していきます。また、地域参加の機会を設ける等、各学校が特色ある地域との学びを継続し、改善できるよう、学校への支援をしていきます。

キャリア在り方生き方教育について保護者等に対し、リーフレットの配布や教育だよりかわさきへ掲載するなど様々な広報機会を捉えて、取組内容等について周知するとともに理解を深めていきます。

教職員が「キャリア在り方生き方ノート」及び「キャリア・パスポート」を効果的に活用できるよう研修を行うなど、実践に向けた支援を行い、児童生徒が主体的に学びに向かう力が身につくよう取組を進めていきます。

施策1	キャリア在り方生き方教育の推進			
概要	<p>教育プランの基本目標である「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けたキャリア在り方生き方教育を推進していきます。</p> <p>発達の段階に応じた福祉教育の推進など、「かわさきパラムーブメント」の視点も踏まえた取組を計画的・系統的に推進します。</p> <p>教師用資料である「キャリア在り方生き方教育の手引き」の活用や研修会などを通じて、全校での取組を支援していきます。</p> <p>高等学校における「キャリア在り方生き方ノート」を作成・配布し、学校での活用を支援していきます。</p>			
事務事業名	キャリア在り方生き方教育推進事業 ★			
担当課	教育政策室（旧：教育改革推進担当）	関係課		
事業の概要	<p>将来の社会的自立に必要な能力や態度を育む教育を全校でより効果的に実践するため、手引の配布や研修により、「キャリア在り方生き方教育」についての理解を深めるとともに、指導体制の構築や家庭との連携を図ります。</p>			
事業計画	<p>H30 (2018)</p> <p>研究推進校での研究結果等を活かした、キャリア在り方生き方教育の推進</p> <p>キャリア在り方生き方教育の実施 ・各校における取組の実施</p> <p>多様性を尊重する教育の計画的・系統的な推進に向けた支援 ・教職員の理解を深める研修の実施</p> <p>「キャリア在り方生き方ノート」を活用した取組の推進 ・高等学校用ノート試作版の作成</p> <p>広報等による保護者等への理解促進 ・リーフレット配布等による広報実施</p>	<p>R1 (2019)</p> <p>・研修の実施及び校務用のネットワークを活用した実践の周知</p> <p>・高等学校用ノートの作成・配布</p>	<p>R2 (2020)</p> <p>・活用推進</p>	<p>R3 (2021)</p> <p>・活用推進及び小・中学校用ノートの見直し検討</p>
実施状況				
<p>①「キャリア・進路指導担当者研修会」を年間3回実施しました。また、新型コロナウイルス感染症の影響から必要となった、学校におけるICTを活用した教育活動の支援を含め、学校等訪問研修会等を76回実施しました。</p> <p>②研修会でのかわさきパラムーブメントについての啓発を継続するとともに、他局と連携して教育活動に活用できる教材の作成と啓発を行うなど、学校における多様性を尊重する教育活動の実施を支援しました。</p> <p>③児童生徒が主体的に学びに向かう力を育む「キャリア・パスポート」を作成し、配布しました。また、令和3年度に計画していた「キャリア在り方生き方ノート」を活用した取組の推進及び小・中学校用ノートの見直しの検討については、令和2年度に前倒して取り組みました。作成したキャリア・パスポートに合わせて「キャリア在り方生き方ノート」について、配布する学年を変更し、小学生から中学生へ進学後も引続き使用されやすいように工夫しました。さらに、担当者研修会及び訪問研修会を開催し、教職員が授業で効果的に活用できるよう支援しました。</p> <p>④「教育だよりかわさき」にキャリア在り方生き方教育の実践例を掲載、紹介し、保護者の教育活動への理解を深めました。</p>				
課題と今後の取組				
<p>①学校の特徴を生かし、今日的な教育課題に対応した、カリキュラム・マネジメントに向けてより実践的な研修を行っていきます。また、手引きも活用しながら、各学校におけるキャリア在り方生き方教育の推進を支援していきます。</p> <p>②多様性を尊重する教育の計画的・系統的な推進に向けた学校支援については、かわさきパラムーブメントへの取組例やSDGsの視点を紹介しながら各学校の理解を深めていくことを継続します。</p> <p>③教職員が「キャリア・パスポート」及び「キャリア在り方生き方ノート」を効果的に活用できるよう研修を行うなど、実践に向けた支援を行います。</p> <p>④キャリア在り方生き方教育について保護者等の理解が深まるよう、リーフレットを配布するなど広報活動を継続していきます。</p>				